

税理士が語る、経営者が知るべき経理・総務のツボ(第27回)

AIによるクラウド会計で経理を省力化するメリット

2018.06.26

現状では経理業務に関して、パソコンに会計ソフトをインストールして行っている会社が少なくありません。一方、最近増加しているのが「クラウド会計システム」の導入です。クラウド会計システムとは、会計ソフトをパソコン端末にインストールするのではなく、インターネットを介してクラウド上にある会計ソフトやデータベースなどのシステムを利用するサービスです。今回はそのメリットと注意点を解説します。

まず、従来のパソコンインストールタイプと比較した主なメリットを整理しましょう。

- (1)パソコンインストールタイプの会計ソフトで必要だったバージョンアップの手間が軽減できる。
- (2)パソコンインストールタイプの会計ソフトで必要だったデータのバックアップ作業の手間が軽減できる。
- (3)インターネットを介して、銀行口座やクレジットカード利用明細などのデータを自動で取得し、連携できる。
- (4)人工知能(以下、AI)の進化によって、自動仕訳機能などが強化され、経理作業の省力化につながる。

非常に分かりやすいメリットが(1)と(2)です。会計ソフトは法律改正に対応するバージョンアップが欠かせません。また、パソコンのトラブルなどを考えると、データのバックアップも不可欠です。こうした経理業務以外の面で、保守・管理という作業が発生します。

もしバージョンアップを怠ると、財務諸表が不正確になったり、税務申告に間違いが生じたりする可能性もあります。データのバックアップを適切に行っておらず、データが喪失した場合、事業に悪影響を与えます。

クラウド会計システムを導入すれば、こうした面倒な保守・管理の手間をアウトソーシングすることができます。法律改正に対応するバージョンアップはもちろん、導入した会社が入力した会計データのバックアップなどもサービスベンダー側が対応します。

(3)と(4)は経理業務の省力化が見込まれるメリットです。特に(4)については、今後非常に注目すべき点ですから詳しく説明しましょう。

経理業務の省力化こそ最大のメリット… 続きを読む